小林人 こばやしびと Vol.127

陸上選手
天満屋女子陸上競技部
吉薗 栞（よしぞの しおり） さん（25歳）

須木出身で小林高校、立命館大学を経て㈱天満屋に入社。
昨年12月に岡山県であった山陽女子ロードレースでは、ハーフマラソンで日本歴代9位となる記録をマークするなど、数多くの五輪選手を輩出してきた名門チームの中でも、有力選手として注目を集めている。

写真説明／山陽女子ロードレース大会での吉薗選手（株式会社 天満屋 提供）

悔しさを乗り越え、手にした初タイトル――

「ずっと〝日本人トップの2位〟というのが続いてたので、一つタイトルが取れたのは自信になった」。

2月9日、山口県で開かれた、実業団所属の有力ランナーが集う、「第53回全日本実業団ハーフマラソン大会」で須木出身の吉薗栞さん（天満屋女子陸上競技部）が初優勝を果たした。

昨年のクイーンズ駅伝や山陽女子ロードレースなど、直近の大会で結果を残してきた吉薗選手は、序盤から先頭集団の中でレースを展開。状態が万全でなく、練習量を確保できていなかった分、レース後半に不安を抱えていたと話す。

「ラスト1キロには自信があったので、力をためて一気にいこうと思っていた」。

中盤以降、集団が絞られる中でも安定した走りを見せた吉薗選手は、狙い通り残り1キロでスパート。2位の選手を一気に引き離し、1時間9分45秒で初優勝のゴールテープを切った。

実業団に入り3年目で初のタイトルに輝いたが、ここまでの道のりは決して平坦なものではなかった。

小林高校を卒業後に進んだ立命館大学、そして実業団1、2年目は、膝のけがなどに悩まされた。

「苦しい時は、家族との電話や年の近い先輩から前向きな言葉をかけてもらえたことで、また頑張ろうという気持ちになれた」。

小学3年生の時に始めた陸上。当時は周囲と比べても特に速かったわけではないと笑って話す吉薗選手。

「走った後の達成感や充実感。速くはなかったけれど、走ることが好きでこれまで続けてこられた」。

見事、初優勝を飾り、須木に帰郷した吉薗選手は地元の反響に驚いたという。

「たくさんの人に『おめでとう』、『元気をもらったよ』と声をかけてもらえて、自分が思っている以上に走りを見てくれていると実感できてうれしい」と笑顔。

「応援してくれている地元の人たちを元気にできる走りができるよう頑張る」と言葉を強めた吉薗選手。

春からのトラックレースでスピードを強化し、来年はマラソンに挑戦したいと意気込んだ。

2月12日には、帰省にあわせ市長を表敬訪問し、全日本実業団ハーフマラソン大会での優勝をはじめとする直近の活躍を報告しました